

# 2018年3月期連結決算および 2019年3月期計画概要説明

2018年5月14日

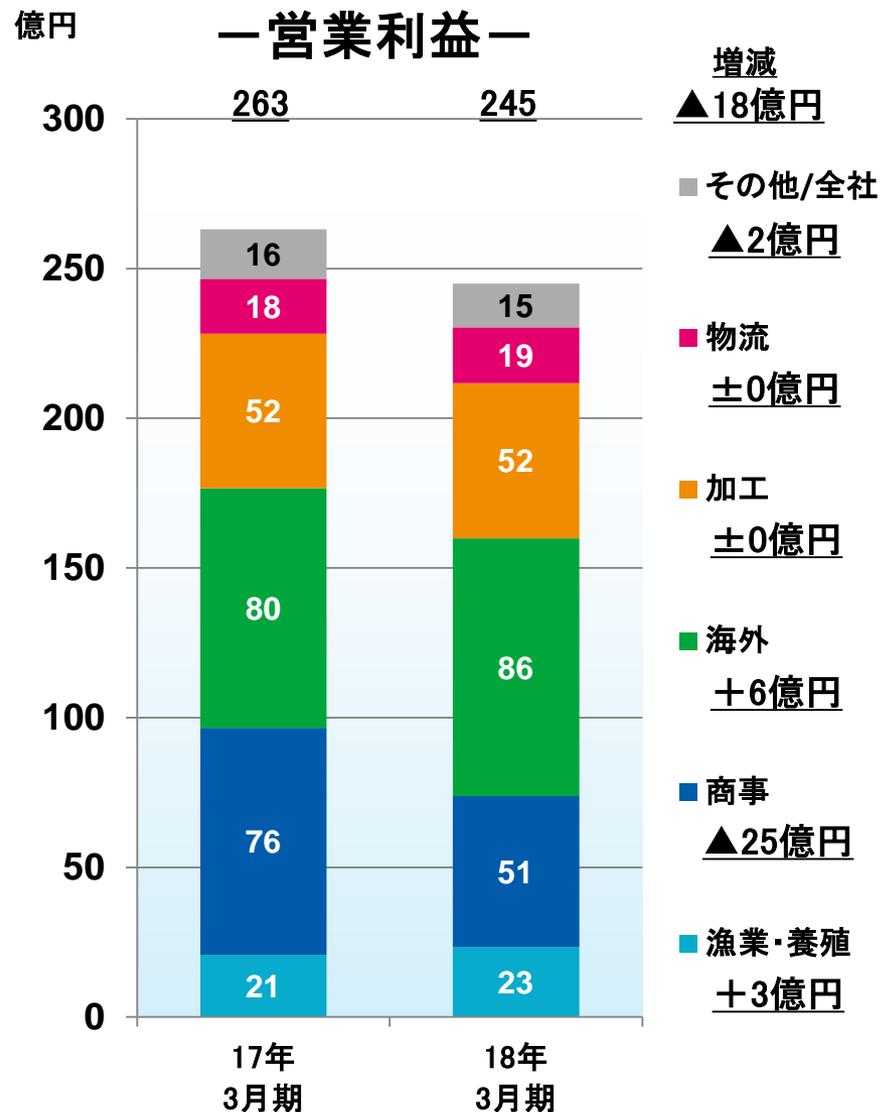
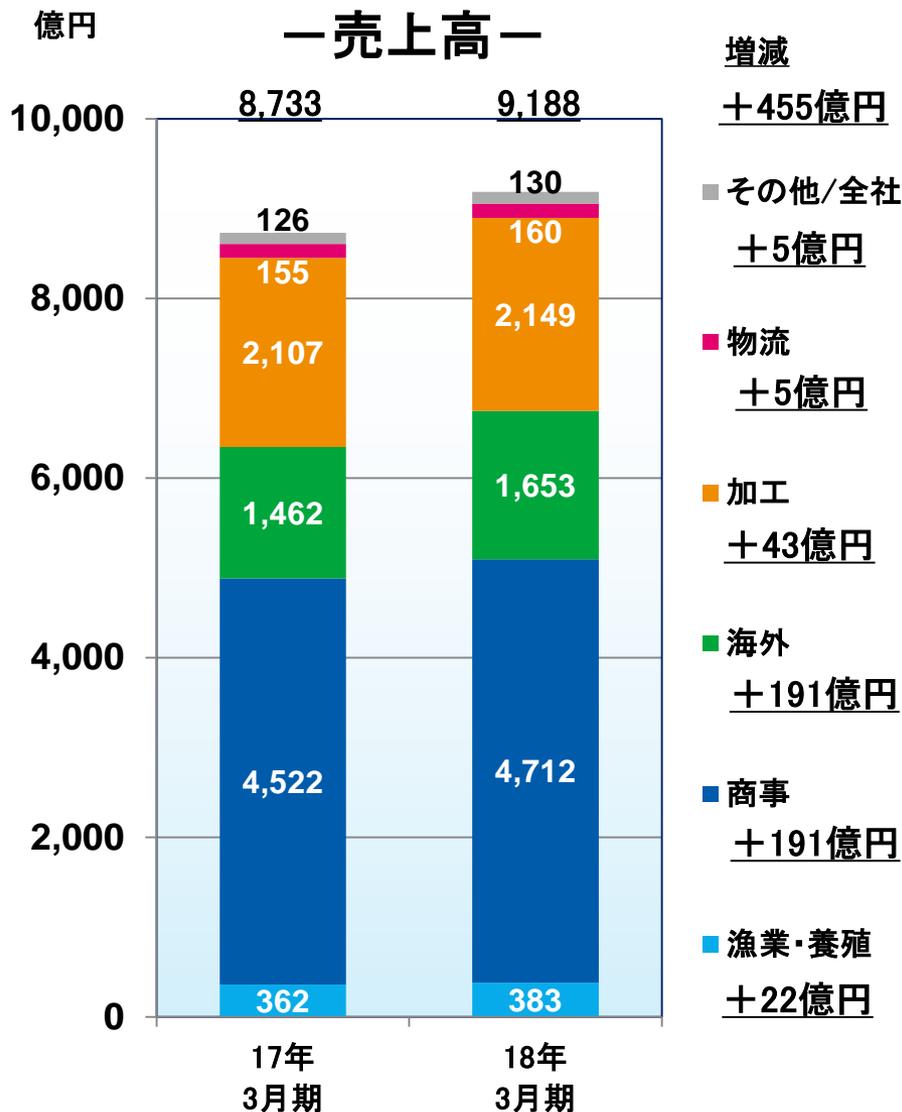


# 1. 連結損益計算書

(単位: 億円)

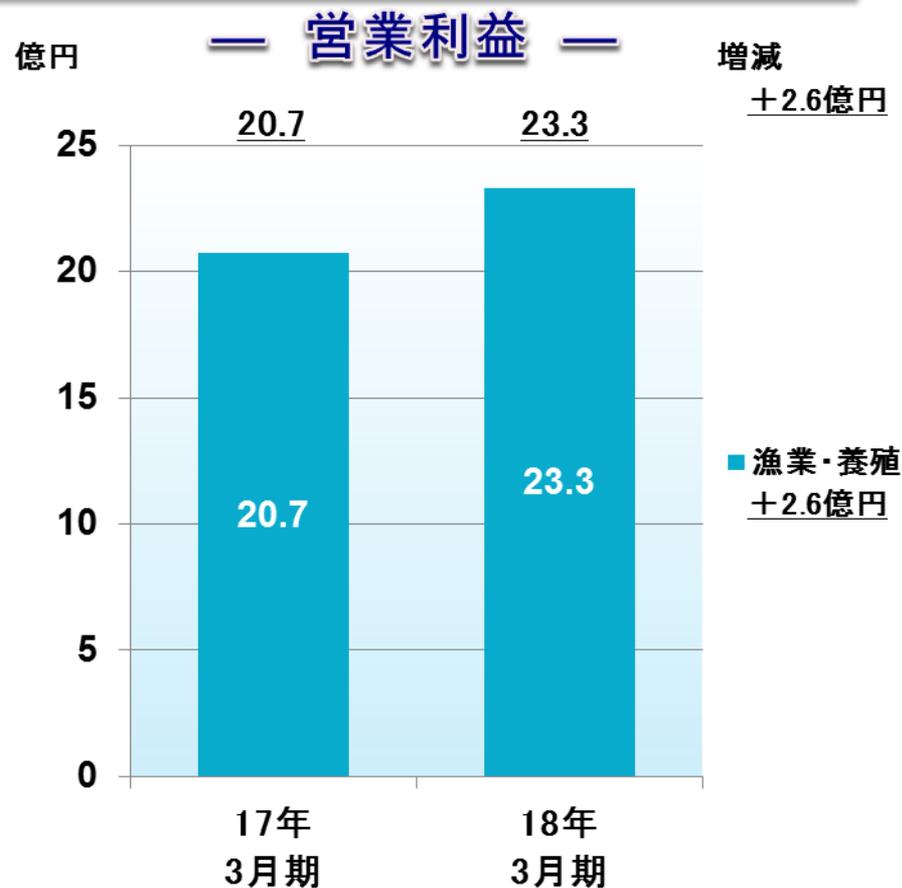
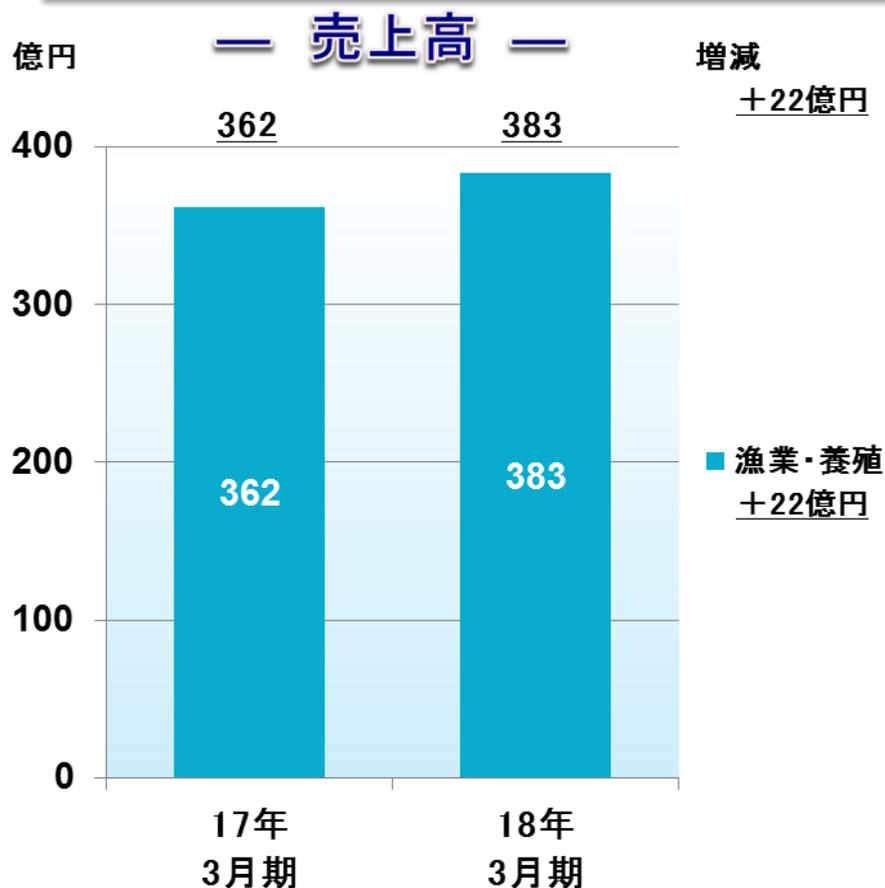
	18年3月期	17年3月期	増減	
売上高	9,188	8,733	455	<b>【主要科目】</b> 営業外収益 受取配当金 12億円 持分法による投資利益 14億円 営業外費用 支払利息 18億円 特別利益 固定資産売却益 6億円 投資有価証券売却益 8億円 特別損失 減損損失 15億円 固定資産処分損 10億円
売上原価	7,937	7,470	468	
売上総利益	1,251	1,263	▲ 12	
販売費・一般管理費	1,006	1,000	6	
営業利益	245	263	▲ 18	
営業外収益	58	43	15	
営業外費用	24	28	▲ 4	
経常利益	279	279	0	
特別利益	14	3	11	
特別損失	26	35	▲ 10	
税金等調整前当期純利益	267	246	21	
法人税等	73	58	15	
非支配株主に帰属する当期純利益	33	34	▲ 1	
親会社株主に帰属する当期純利益	161	154	7	

## 2. セグメント別 売上高／営業利益



# 3-①. 漁業・養殖セグメント

- 事業概況：  
漁業における魚価上昇及び養殖事業における出荷増、  
カツオの魚価高や国内外の好調な漁獲により漁業の利益率が改善し増収増益



## 3-②. 商事セグメント

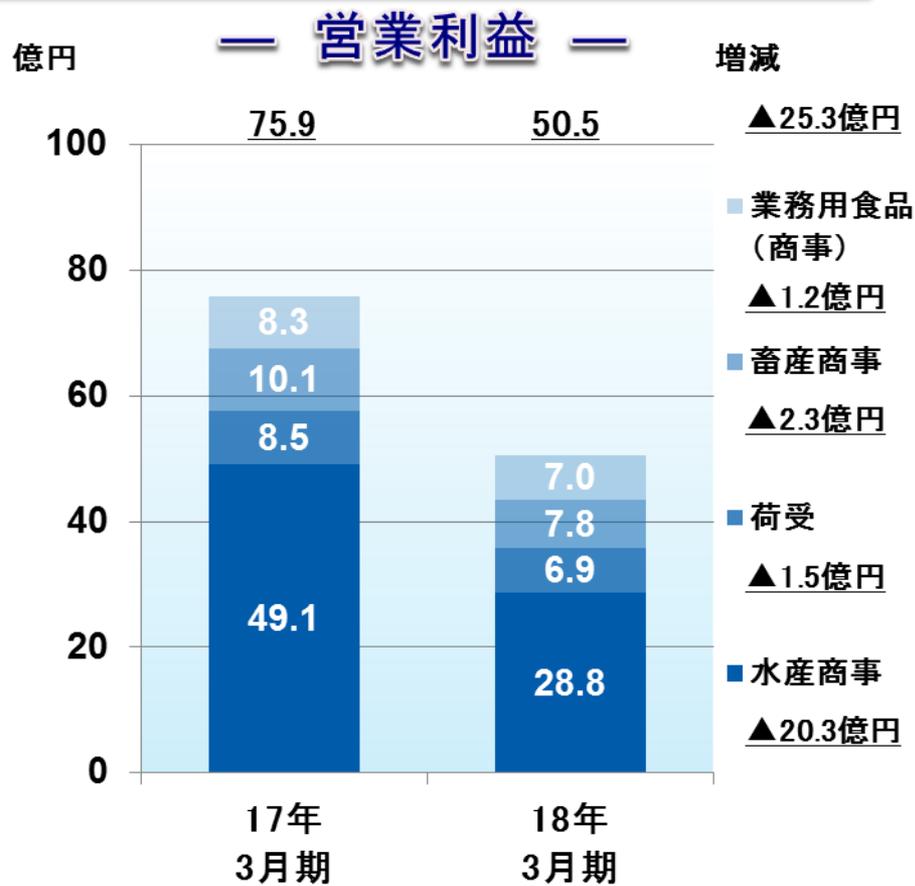
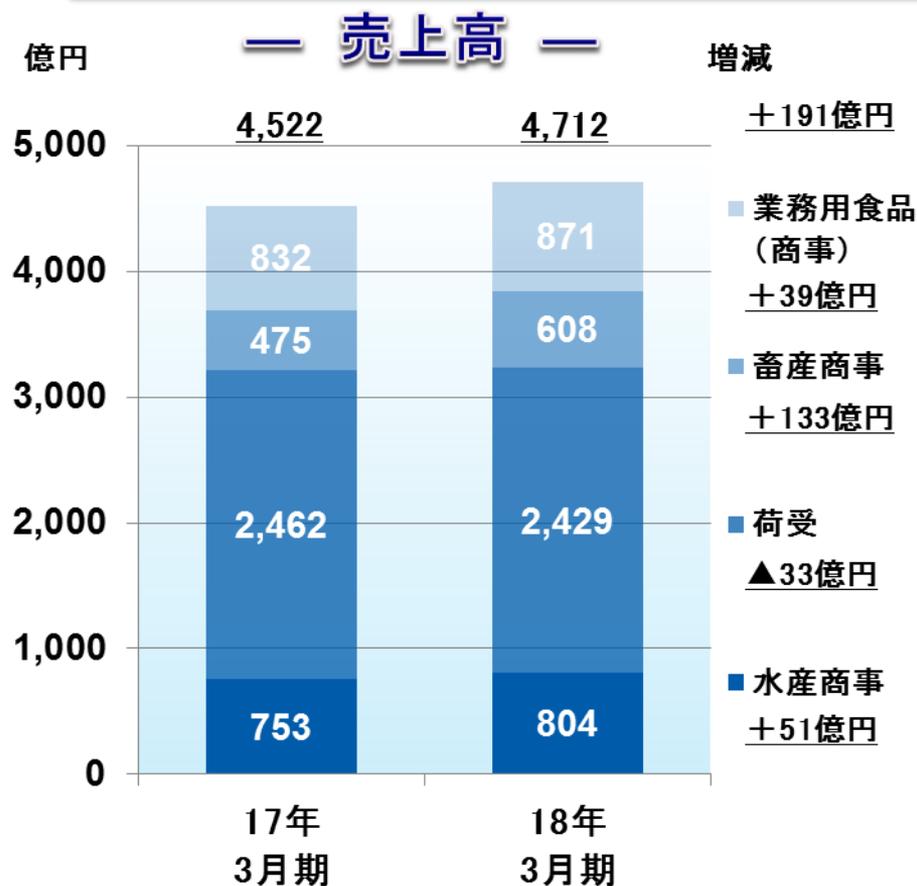
### ■ 事業概況：

水産商事：冷凍魚・エビ等原料・加工品販売好調も、浜値高や円安による調達コスト増加影響で増収減益

荷受：天候不順等による不漁で集荷苦戦、販売も単価高により全般的に低調で利幅取り難く減収減益

畜産商事：取扱数量増加も、加工品、鶏肉、飼料原料の利益率低下により増収減益

業務用（商事）：CVS、外食等販売堅調も、原料コスト上昇等の影響により増収減益



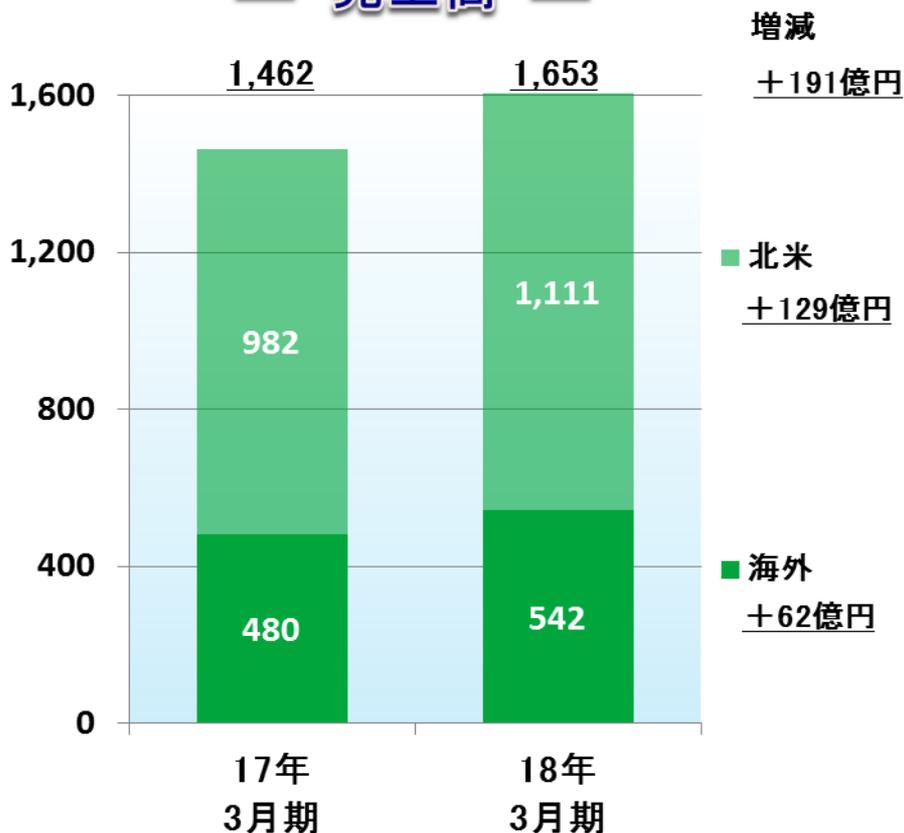
# 3-③. 海外セグメント

■ 事業概況：

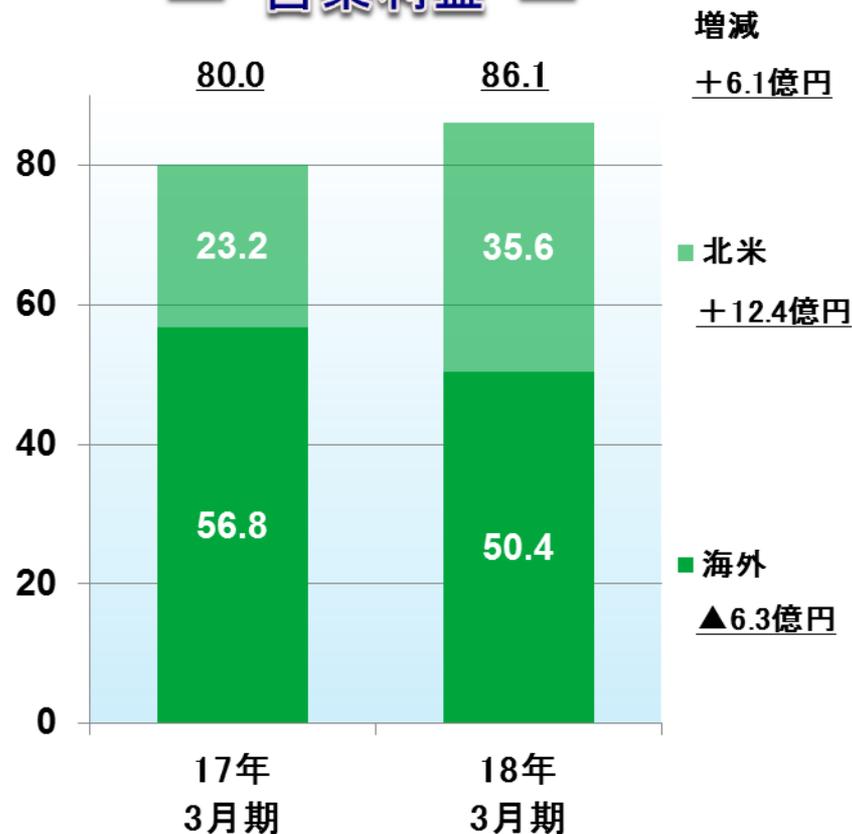
海外：日本産水産物の輸出事業や、豪州での漁労事業が順調に推移も、タイでのペットフード事業の原料価格高騰等により増収減益

北米：ズワイカニの漁獲枠削減に伴う生産・販売減の影響も、助宗すりみの効率的な生産・順調な販売及びアラスカ紅鮭・鱒の生産・販売増により増収増益

— 売上高 —



— 営業利益 —



# 3-④. 加工セグメント

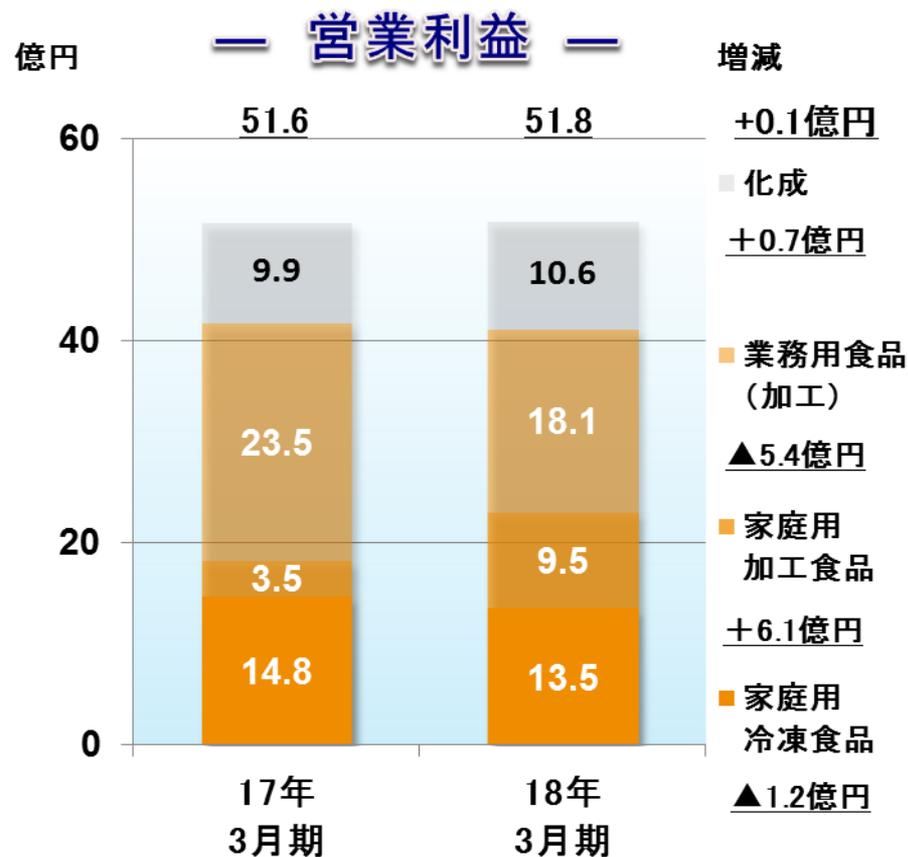
## ■ 事業概況：

家庭用冷凍食品：米飯類、グラタン類、冷凍野菜の販売増も、新規設備投資の償却増で増収減益

家庭用加工食品：青物缶詰伸長、チルド食品販売増に加え、原料コストや生産性の改善により、増収増益

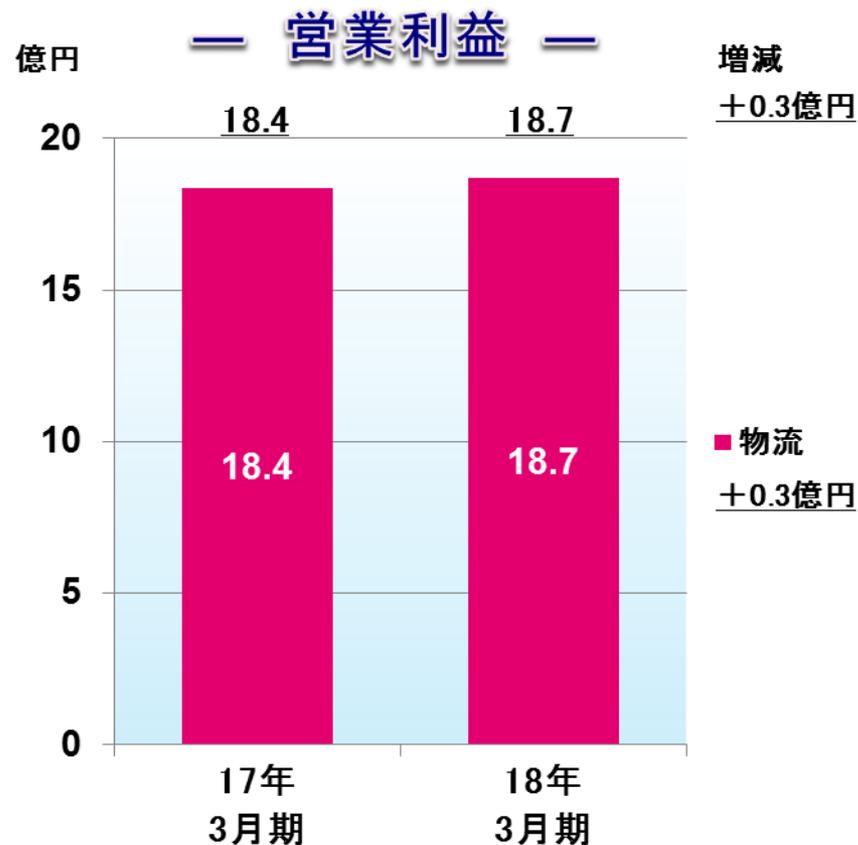
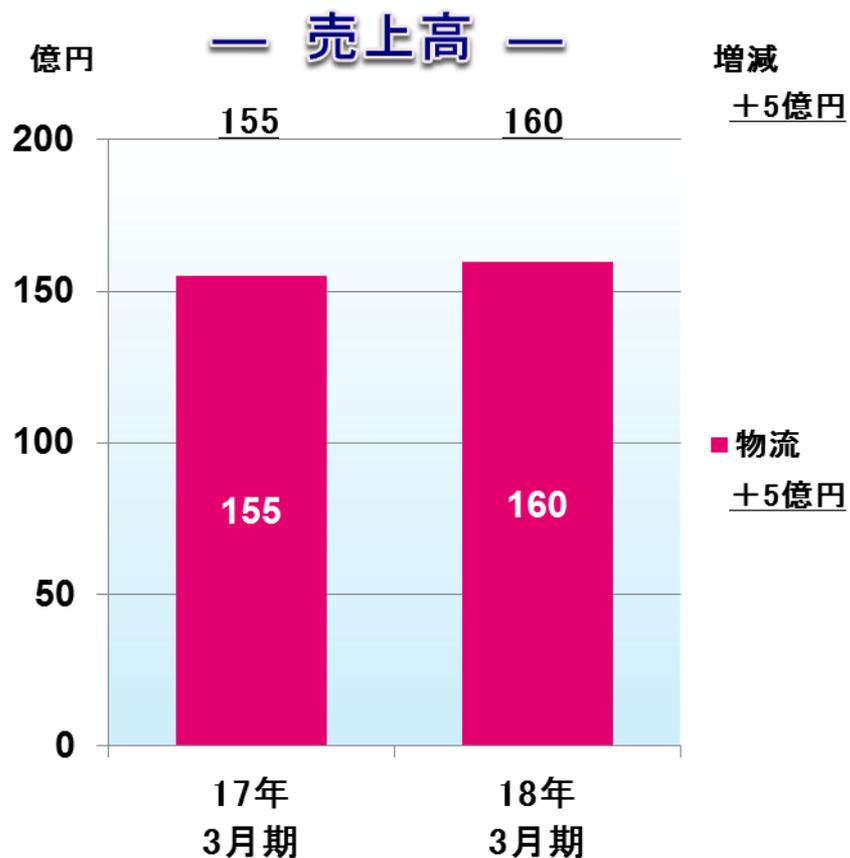
業務用（加工）：介護食・CVS等取組み強化、自社工場製品の販売伸長も、調達コスト増加等が影響し増収減益

化成：輸出減少、原料不足で販売調整も、機能性表示食品制度を追い風にDHA/EPA販売好調で、売上高前年並みも増益



## 3-⑤. 物流セグメント

- 事業概況：  
前期に稼働した出水物流センター減価償却費の増加、動力費等のコスト上昇があったものの  
冷蔵保管事業、輸配送事業ともに取扱数量増加により増収増益



## 4. 課題事業への取組み状況

- ◆ 中計後半で課題事業として取組んだ結果、2年間で60億円の利益改善
- ◆ 特に北米鮭鱒事業、アクリ冷凍食品事業は大幅な改善を達成

課題事業	2016年3月期 営業利益	改善内容	2018年3月期 営業利益
① マレーシアえび養殖事業	▲8億円	・売却済	-
② 北米鮭鱒事業	▲10億円	・生産効率改善 ・紅鮭・鱒の回復	13億円
③ アクリ冷凍食品事業	▲15億円	・重点品への販売集中 ・営業体制等の見直し	0億円
④ 魚肉ソーセージ事業	▲7億円	・重点顧客への販売拡大 ・生産効率改善	1億円
⑤ デザート事業	▲6億円	・CVS、量販店の販売強化 ・閑散期向け商品開発	▲3億円
⑥ ロングライフチルド食品事業	▲8億円	・日配、CVS、デリカ惣菜 ルートでの販売拡大	▲5億円
合計	▲54億円	合計	6億円

60億円の改善

## 5. 連結貸借対照表

(単位:億円)

	18年3月末	17年3月末	増減		18年3月末	17年3月末	増減
流動資産	2,955	2,790	165	流動負債	2,198	2,262	▲ 64
現預金	165	138	27	仕入債務	368	331	37
売上債権	1,157	1,037	120	短期借入金	1,382	1,490	▲ 108
たな卸資産	1,520	1,496	24	その他	449	441	8
短期貸付金	7	11	▲ 3	固定負債	1,570	1,523	47
繰延税金資産	33	35	▲ 2	長期借入金	1,278	1,232	47
貸倒引当金	▲ 4	▲ 7	3	その他	291	291	0
その他	76	81	▲ 4	負債合計	3,768	3,785	▲ 17
固定資産	2,213	2,223	▲ 10	株主資本	1,072	935	137
有形固定資産	1,384	1,400	▲ 16	資本金	200	200	0
無形固定資産	219	223	▲ 4	剰余金	872	736	137
(内のれん)	91	101	▲ 10	自己株式	▲ 1	▲ 0	▲ 0
投資その他資産	610	600	10	その他の包括利益累計額	83	72	11
				非支配株主持分	246	222	24
				純資産合計	1,400	1,228	172
資産合計	5,168	5,013	155	負債純資産合計	5,168	5,013	155

## 6. 2019年3月期通期計画

- ◆ 中期計画初年度として、引き続き増収増益基調を継続
- ◆ 当期純利益（親会社帰属）は今期も最高益更新へ

	2019年 3月期計画 A	2018年 3月期実績 B	差異 A－B
売上高	9,200億円	9,188億円	12億円
営業利益	250億円	245億円	5億円
経常利益	270億円	279億円	▲9億円
当期純利益 (親会社帰属)	170億円	161億円	9億円
1株当たり 当期純利益	323.01円	305.95円	17.06円

為替レート  
米ドル／円

19年3月期計画

18年3月期決算

113.00

112.39

## 7. 2019年3月期 セグメント別通期計画

(単位:億円)

セグメント	売 上 高			営 業 利 益		
	19年 3月期計画	18年 3月期	増減	19年 3月期計画	18年 3月期	増減
漁業・養殖	371	383	△ 12	23	23	△ 0
商事	4,469	4,495	△ 26	55	48	7
海外	1,652	1,694	△ 42	84	88	△ 4
加工	2,408	2,326	82	60	53	7
物流	164	160	4	18	19	△ 1
その他	136	130	6	10	8	2
全社	-	-	-	0	7	△ 7
合計	9,200	9,188	12	250	245	5

※2018年3月期実績は、2019年3月期のセグメント間の事業組換えを反映しています。

## 8. 2019年3月期事業見通し <商事セグメント>

【億円】	売上高			営業利益		
	19年3月期 計画	18年3月期	増減	19年3月期 計画	18年3月期	増減
水産商事	1,444	1,499	▲55	40	34	6
荷受	2,463	2,429	34	10	7	3
畜産商事	562	567	▲5	5	6	▲1
商事セグメント計	4,469	4,495	▲26	55	48	7

### 水産商事ユニットの事業環境と施策

#### 事業環境

- ・ 主要魚価は一部を除き引続き高値圏
- ・ 世界的な魚食普及により調達競争厳しい状況

#### 施策

- ・ 利益優先の買付
- ・ 商品開発力の強化による付加価値加工品の拡大
- ・ 国内外の販売ネットワークとの協働を通じた販売力強化



## 8. 2019年3月期事業見通し <海外セグメント>

【億円】	売上高			営業利益		
	19年3月期 計画	18年3月期	増減	19年3月期 計画	18年3月期	増減
海外	567	542	25	57	50	7
北米	1,085	1,152	▲67	27	37	▲10
海外セグメント計	1,652	1,694	▲42	84	88	▲4

### 海外／北米ユニットの事業環境と施策

#### 事業環境

- ・ タイ・・・欧米ペットフード市場堅調につき生産ラインを増設
- ・ オーストラリア・・・主力商材のメロ漁業の枠は微増
- ・ 北米・・・鱒が不漁年にあたり漁獲減の予想

#### 施策

- ・ タイ、オーストラリア、及びニュージーランドの事業拠点における収益基盤の強化
- ・ 北米鮭鱒事業は収益力の高い冷凍製品の生産・販売強化
- ・ 欧州販売体制の強化
- ・ 資源アクセス強化に向けて新規拠点候補の選定



# 8. 2019年3月期事業見通し <加工セグメント>

【億円】	売上高			営業利益		
	19年3月期 計画	18年3月期	増減	19年3月期 計画	18年3月期	増減
家庭用冷凍食品	626	607	19	13	14	▲1
家庭用加工食品	391	390	1	9	7	2
業務用食品	1,228	1,178	50	23	19	4
化成	163	151	12	15	14	1
加工セグメント計	2,408	2,326	82	60	53	7

## 家庭用冷凍食品／業務用食品ユニットの事業環境と施策

### 事業環境

- ・ 食卓需要の増などもあり 引続き堅調に推移
- ・ コンビニ、ドラッグストア等に 売場が拡大
- ・ 共働き世帯増、人手不足が追い風に
- ・ 原料高・物流費UPがネック



### 施策

- ・ 商品開発力の向上
- ・ 生産体制の強化
- ・ ブランド認知度の向上

自社品販売に注力



売上拡大と利益率の改善



# <参考資料1> ユニット別売上高・営業利益 前年対比

(単位: 億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年 3月期	17年 3月期	増減	18年 3月期	17年 3月期	増減
漁業・養殖	漁業・養殖	383	362	22	23	21	3
商事	水産商事	804	753	51	29	49	△ 20
	荷受	2,429	2,462	△ 33	7	8	△ 2
	畜産商事	608	475	133	8	10	△ 2
	業務用食品(商事)	871	832	39	7	8	△ 1
	計	4,712	4,522	191	51	76	△ 25
海外	海外	542	480	62	50	57	△ 6
	北米	1,111	982	129	36	23	12
	計	1,653	1,462	191	86	80	6
加工	家庭用冷凍食品	607	590	17	14	15	△ 1
	家庭用加工食品	486	475	11	10	3	6
	業務用食品(加工)	1,001	986	15	18	23	△ 5
	化成	55	55	△ 0	11	10	1
	計	2,149	2,107	43	52	52	0
物流	物流	160	155	5	19	18	0
	その他	130	126	5	8	12	△ 4
	全社	-	-	-	7	5	2
	合計	9,188	8,733	455	245	263	△ 18
	業務用食品ユニット計	1,872	1,817	54	25	32	△ 7

## <参考資料2> ユニット別売上高・営業利益 計画

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年 3月期計画	18年 3月期	増減	19年 3月期計画	18年 3月期	増減
漁業・養殖	漁業・養殖	371	383	△ 12	23	23	△ 0
商事	水産商事	1,444	1,499	△ 55	40	34	6
	荷受	2,463	2,429	34	10	7	3
	畜産商事	562	567	△ 5	5	6	△ 1
	計	4,469	4,495	△ 26	55	48	7
海外	海外	567	542	25	57	50	7
	北米	1,085	1,152	△ 67	27	37	△ 10
	計	1,652	1,694	△ 42	84	88	△ 4
加工	家庭用冷凍食品	626	607	19	13	14	△ 1
	家庭用加工食品	391	390	1	9	7	2
	業務用食品	1,228	1,178	50	23	19	4
	化成	163	151	12	15	14	1
	計	2,408	2,326	82	60	53	7
物流	物流	164	160	4	18	19	△ 1
	その他	136	130	6	10	8	2
	全社	-	-	-	0	7	△ 7
	合計	9,200	9,188	12	250	245	5

※2018年3月期実績は、2019年3月期のユニット間の事業組換えを反映しています。

**Thank You**



# MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。